

# 理事会を全支部にウェブ配信



## 群馬建協 新しい様式展開

群馬県建設業協会(青柳剛会長)は、前橋市の群馬建設会館で25日開いた常任理事会を、ウェブ会議システムを通じて協会全12支部に同時配信した。写真。

群馬建協は新型コロナウイルス感染症を契機に、団体としての新しい活動様式を模索。これまでも4月に正副会長会議をウェブ上で開いたり、5月に開催した総会の模様を会員各社に生中継するなどの試みを積極的に展開してきた。

コロナ禍の第2波なども懸念さ

れる中、今後も継続的に「離れてつながる」スタイルでの活動が求められる。ウィズコロナ時代に向け、青柳会長はかねてから「急場しのぎだった“仮設”の対策を“本設”へと移すとき」と指摘しており、今回の理事会配信も「これまでの取り組みを一過性のもものとせず、今後も定着させるために実施した」と狙いを説明する。

25日の常任理事会では、国や県の動向、北関東3県合同会議のテーマ、コロナ対応、災害避難所向けパーティーション「KAMIKABEへかみかべ」の展開などについて話し合い、ウェブを通じて12支部すべてが参加した。



## 常任理事会をウェブ同時配信 群馬建協

群馬県建設業協会(青柳剛会長)は、前橋市の協会本部で25日に開いた常任理事会の様子をウェブ会議システムで全12支部に同時配信した。写真。新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、情報共有を促す取り組み。常任理事会の同時配信は初めて。

国や県の動向、群馬県県土整備部長との意見交換、北関東3県の合同会議テーマ、新型コロナ対応、避難所向けなどの段ボール製仕切り壁「KAMI KABE(かみかべ)」などが議題だった。群馬建協は大勢が集まるのが難しくなる会合の分散開催などに、同システムを役立てていく。

